

SDGs新聞

グリーンエクスポ協会の
GREEN×EXPO 2027年国際園芸博覧会協会

建物って何度も生まれ変われるの？

SDGsラジオを読みましょう！

積み木やブロックであそんだあと、「こわすのはもったいないな」と思ったことはありませんか？
実は、その「もったいない」という考え方は大きな建物にもいかされています。
横浜でひらかれる「GREEN×EXPO 2027」では、建物をこわしたあとも、
また別の場所でするようにする「GREENサーキュラー建築」に取り組みます。
一度使ったらこわしてすてるのではなく、積み木やブロックのように形を変えて何度も使うことで、ゴミを減らし、資源を大切にできるんです。
横浜グリーンエクスポではほかに、地球にやさしい会場づくりが進められています。
なんと、大阪・関西万博の「大屋根リング」の木材が、ベンチやウッドデッキ、高さ約60メートルの木のタワーへと生まれ変わるんですよ。
一度使って終わりにせず、次の形につないでいくことも、SDGsにつながる大切な考え方です。
みなさんの身のまわりにも、別の形に生まれ変われるものはありますか？さがしてみましょう。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



建物をつくるには、木や金属など、たくさんの資源が必要です。また、使い終わった建物をこわすときにもたくさんのエネルギーが必要になります。そこで、横浜でひらかれる「GREEN×EXPO 2027」では、会場内で一時的に使う建物に「GREENサーキュラー建築」という考え方を取入れます。これは、建物を使い終わった後のことまで考え、材料をできるだけすてずに、リユースやリサイクルができるようにつくる建築のことです。GREENサーキュラー建築では、「資材をむだにせず次につなぐこと」、「その土地の地形などの環境に合わせ、自然の力を取り入れること」、そして「植物と建物の関係を大切にすること」の3つを大切にしています。

画像参照：GREENサーキュラー建築の建物のイメージ
提供：公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会



画像参照：大阪・関西万博の木々をGREEN×EXPO 2027へ運ぶために使われたコンテナ
提供：公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会

GREEN×EXPO 2027では、GREENサーキュラー建築のほかにも、使い終わったものを次にかす工夫が進められます。たとえば、2025年にひらかれた「大阪・関西万博」の建物や木々が、GREEN×EXPO 2027へ引きつがれます。「大屋根リング」の木材は、ベンチやウッドデッキ、木のタワーなどに、アイルランドパビリオンで使われた木材はメインゲートの資材になります。また、ウーマンズパビリオンの一部は、もともと2021年にひらかれたドバイ万博の日本館から受けつがれたもので、GREEN×EXPO 2027でも再び使われます。このように、ものを一度使って終わりにせず、できるだけ長く使い、形を変えながら資源をつないでいく社会のしくみを「サーキュラーエコノミー」といいます。GREEN×EXPO 2027では、こうした会場づくりを通して、持続可能な社会づくりをめざしています。

キーワード

資材

建物や道路をつくるために使う材料のことです。木や金属、石など、さまざまなものがあります。

サーキュラーエコノミー

ゴミをできるだけ出さず、ものや資源をくり返し使ったり、別の形でいかしたりするしくみのことです。地球にやさしくしながら、ものづくりや経済を続けていく考え方です。

持続可能な社会

環境や資源を大切にしながら、今だけでなく未来の人たちも安心してくらしていける社会のことです。

対象ゴール



みなさんにできること！

まわりに、別の形に生まれ変われるものがないか、さがしてみましょう。

おさらい

- 一度使ったら終わりではなく、リユースやリサイクルができるようにつくる建築を「GREENサーキュラー建築」という。
- GREEN×EXPO 2027では、大阪・関西万博の建物や木も受けつがれる。
- GREEN×EXPO 2027は地球にやさしい会場づくりを通して、持続可能な社会づくりをめざしている。

メモ

